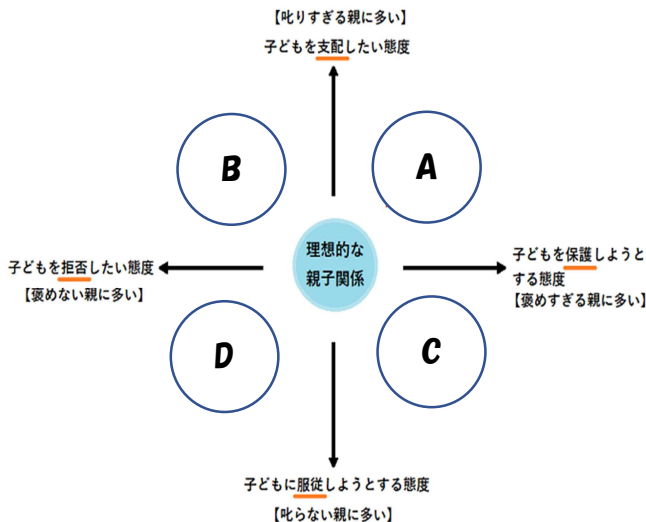


親も子もともに **ONE** の学び，はじめませんか！

コロナ禍，酷暑，随分と短い夏休みとなりました。今までのように思う存分夏を満喫し…とまではいかなかったと思いますが，夏休みにしかできない体験をし，どの子ども達も一回り大きく成長されたのではないのでしょうか。さて，今回はちょっとした親子関係の簡単診断テストをご紹介しますと思います。

+ あなたはどのタイプ？

下に，【親子関係の簡単診断テスト】を載せています。あなたの親子関係はどこに当てはまりそうですか。（縦軸・横軸の4パターンのなかの，バランスがとれている“真ん中”が，「理想的な親子関係」とされています。）



- A「かまいすぎ」タイプ
子どもは「幼稚さをもつ」傾向に
- B「残忍」タイプ
子どもは「人の顔色をうかがう」傾向に
- C「甘やかし」タイプ
子どもは「反抗的になる」傾向に
- D「無関心」タイプ
子どもは「落ち着かなくなる」傾向に

サイモンズ式分類を基にした、親子関係の特徴4パターン

子どもの性格形成を決定づけるのは，もちろん，上でご紹介したことが全てではありません。家庭・生活環境，周囲の愛情，親の行動なども，子どもの性格に大きく関係します。しかし親にとって，子どもへの「態度・ふるまい」の一つの指針として「サイモンズ式分類」は役立つものなので，少し心に留めておいていただけたらと思います。これからはAI全盛の時代がやってきます。今の子どもたちが大人になる頃には，多くの仕事が機械によって行われるようになっているはずです。機械にできない仕事ができる人間にするためには，自ら「考える」ことがより重要になってきます。

主体性のある子どもに育てるためには，親はバランスの取れた態度で接する必要があります。支配しすぎず，服従しすぎず，保護しすぎず，拒否しすぎない。上手にバランスを保ちつつ，子どもたちが自ら考えて，行動する機会を奪わないことがとても大切になってきます。

参考
キナリノ：心理学から導く子どもを伸ばすために親が心がけたい5つのこ

〈次回へ続く〉